勿論印度及びバクトリア間の通商本道をも支配するもので、法師も此の地方には各種の物質が豐かであると言つて居るが、農産物なども少くなかつたものである。ゴルバンド川、パンヂール Panjshir 川、それ等の支流及び周圍の山から出る小谷に灌漑される此の廣大な盆地は、カーブール盆地よりは稍〻低く氣候も幾分溫和で、果樹五穀の栽培には申分なく、扁桃(アマンド)、乾杏子、葡萄、乾葡萄など印度方面に輸出される果實の數量は莫大なものである。唯一つ缺點と見るべきものは、法師も言つた通り、屢〻猛烈な北風に襲はれることであるが、其の外には天惠が非常に多い。それを思ふと、法師が手記に書き留めて其の調査判定を吾人に遺した宗教的建築物の多かつた譯も自ら解つて來る。

扨て、此の邊の塔(窣覩波)や寺(伽藍)などの遺跡を求めるにはどの方面を探るべきか、イラン高原の大部分に見るやうに、カピシャ平原も矢張り古代湖水の內屈した底部に外ならぬもので、地質時代に其の水面が周圍の山中に通路を開いて俄にインダス河に流出した當時、其の流域中流出口に近付くに從ひ被害も愈々多かつたものである。其の結果、此の平原の北部は劃然三段の層